

(別紙)

成果の説明書

(氏名) 木下まゆみ	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項</p> <p>◆研究</p> <p>(1) 集団討論に関して</p> <p>前年度の研究から、効果的な集団討論においては行動上の同期現象が生じることが示された。この知見を展開させることを目的に、「集団討論におけるターン・テイキング可視化手続きの効果に関する研究」として28年度高崎経済大学研究奨励費を獲得した。これにより、集団討論における同期現象を活性化するための具体的方法を検討した。来年度、その成果を学会にて発表予定である。</p> <p>(2) 転移促進について</p> <p>転移とは、ある文脈で獲得した行動が、他の文脈で再現されることをいう。教育場面でいえば、応用力に該当する概念であり、教育上の重要性は高い。その成立には認知的要因が深く関わると考えられている。特に、当初の学習文脈と転移文脈における認知的要因の「距離」が転移を促進すると想定し、検討を行った。その成果を高崎経済大学論集（「経済学に関する素朴理論の転移促進課題による 修正効果とその個人差-情報処理スタイルとの相互作用の検討-」第59巻、p.1~17、2017年）にて発表した。</p> <p>(3) 思考スタイルについて</p> <p>認知心理学、社会心理学においては、情報処理の2重過程モデルが想定され、研究が進められてきた。従来は、合理的思考と直観的思考の2種類のスタイルがカテゴリー的に理解されてきたが、これを複数の要因が組み合わされた動的プロセスとして把握する対照的な観点が提起され始めた。(2) 転移促進において、思考スタイルの影響を合わせて検討したところ、動的プロセス仮説を支持する結果が得られた。その結果および考察を、高崎経済大学論集（第59巻、p.1~17、2017年）にて発表した。</p> <p>(4) 認知療法について</p> <p>抑うつ軽減においては、ネガティブな思考をポジティブなものに変えることが重要視されている。そこでの認識変化における思考の時系列的分類と、思考スタイルとの関連性について、合理的思考とフィードバック・プロセス、直観的思考とフィードフォワード・プロセスとの近似性を中心に考察し、その成果を研究会にて発表した。</p> <p>◆授業以外の教育への取り組み</p> <p>ゼミ生および授業受講者を対象に、コミュニケーション力の向上を目的としたワークショップを開催した。講師は、インプロ・ジャパンより招聘し、即興劇を中心としたコミュニケーション・チャネルの意識化を図った。開催にあたっては、高崎経済大学経済学会学生支援プログラムの助成を得た。本年度で4回目であり、毎回学生より高評価を得ている。</p> <p>◆テキスト出版</p> <p>心理学テキストの執筆を行い、近日中の発行を目指して準備を行っている。</p> <p>◆社会活動</p> <p>日本パーソナリティ心理学会理事として、学会賞の選考に関わる活動を行った。 日本パーソナリティ心理学会常任編集委員として、論文査読を行った。</p>	
<p>2 その他の事項</p> <p>高崎経済大学附属高等学校にて、出前授業を行った。 高崎経済大学教員免許状更新講習にて、「教育の最新事情」を担当した。</p>	

3 次年度以降の計画・抱負

(1) 集団討論に関して

集団討論は、発言者に対する応答的反応によってその成否が決まる。参加者の行動的同期現象は、こうした応答的反応といかなる関連を持つのかを検討するため、討論の質的分析を進める。

(2) 転移促進について

今年度の研究では、介入による転移促進が認められたが、さらに効果を高めるための介入方法を探索する。

(3) 思考スタイルについて

動的プロセスとしての合理的思考・直観的思考に関する議論を整理する。

(4) 認知療法について

(3) の議論をふまえ、思考スタイルを複数の情報処理から構成される動的プロセスと位置づけ、時系列的観点を含めた新たな抑うつ軽減モデルを構築する。